

# デジタル教材「タイムトラベル名探偵！」を 活用した実践提案

ーより生徒が主語になる授業を目指してー

神奈川県 川崎市立川崎高等学校附属中学校 教諭 石井 穰

## 1 「令和の日本型学校教育」におけるデジタル教科書・教材の普及促進について

令和3年1月26日の中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」が出されてから3年が経過した。学校現場では、学習指導要領や本答申を踏まえ、ICT、中でも特にクラウドを活用した複線型の授業をはじめとしたさまざまな実践が行われ、現在「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を目指した授業の在り方が模索されている。

また、この答申では、ICTの重要性とともに、ICT環境整備の在り方として、デジタル教科書・教材等の普及促進が示されている。近年、特別に支援が必要な生徒、外国籍で日本語指導が必要な生徒、不登校や不登校傾向の生徒など、以前に増して子どものさらなる多様化がみられる。そのような状況で、全ての生徒一人一人の興味・関心に応じた学習活動や学習課題に取り組む機会を提供していくために、紙面での教科書に加え、デジタル教科書・教材など、さまざまな学習教材についてさらなる検討・導入を図っていくことが教員に求められていると感じる。

生徒の多くは、デジタル教材が大好きである。生徒の興味のあるものを、目的をもって授業で導入することができるのであれば、生徒にとっても教員にとっても有益である。その思いから今回、「タイムトラベル名探偵！」を紹介したい。

## 2 「タイムトラベル名探偵！」とは？

VR（バーチャル・リアリティ）技術がゲーム、ビジネスをはじめとしたさまざまな分野で利用され、現在、教育分野におけるメタバースの応用が進められている。また、「子供を主語にする学校教育」（中教審答申）が求められる現状を踏まえて、学習者視点を重視して開発されたのが「タイムトラベル名探偵！」である。このコンテンツは、来春発売予定の令和7年度版デジタル教科書・教材『社会科 中学生の歴史』（以下、デジタル教科書）に収録予定である（帝国書院ウェブサイトにて体験版を公開中）。令和7年度版『社会科 中学生の歴史』（以下、教科書）の、時代を大観する上で大きな強み・特徴である「タイムトラベル」を端末内で立体表示させることで、生徒が過去の歴史に対して、没入感をもって楽しく学ぶことができるようになっている。また、授業での活用を考慮して、教科書に対応するよう、イラストをいくつかのエリアに分割している（図1）ことが特徴である。体験版では「タイムトラベル⑧ 江戸時代



図1 帝国書院ウェブサイト 令和7年度版 指導者用 学習者用デジタル教科書・教材 体験版 「タイムトラベル名探偵！」 エリア選択画面

を眺めてみよう」の「農村エリア」の体験が可能である。仮想空間である江戸時代の農村に行き、その時代の人々へのインタビューから情報を得、それを推理してミッションに答えることで時代の特色を学ぶ内容となっている。

### 3 「タイムトラベル名探偵！～江戸時代を眺めてみよう～」を活用した授業実践例

#### (1) 1時間の授業における「展開」「整理」の段階での活用例

流れ	生徒の活動
導入	・本時の課題「江戸時代の国内産業は、どのように発達していったのだろうか」を確認する。
展開	・「タイムトラベル名探偵！」を使って、本時の課題に対する情報収集を行う。
整理	・「手帳機能『推理する』」を使用して、本時の課題に関するクイズに答える。 ・本時の課題についての考えをワークシート等に記入する。

「タイムトラベル名探偵！」は1時間の授業(1見開き)に対応したエリア分けがされているため、1時間の授業構成に組み込みやすい。例えば上の表のような授業では、本時の課題に対する情報収集の手段として位置づけることが想定される。学習リソースを学習者自身が選択する「個別最適な学び」の観点から考えると、紙面の教科書やデジタル教科書、その他資料との併用が望ましいと考えられるが、実際に学校現場では、文章から必要な情報を探し出すことが苦手な生徒もいるのが現実である。そのような生徒にとっては、**立体表示の中で学習者自身**



図2 同前 エリア内巡回画面



図3 同前 登場人物へのインタビュー画面

が主人公となって操作し(図2)、登場人物にインタビューをする(図3)という情報収集の方法は、学習意欲を大いに喚起するものとなる。また、年代的に大きな隔たりがあるために、自分事としてとらえにくい部分がある歴史的分野の学習において、**歴史への没入感をもって学習に臨めることは、主体的な学びを進める大きな一助となる**と考えられる。

また、登場人物に話しかける際の質問項目は右上から選択する形式になっている。**これらの質問(図4)は、それぞれ動作(ここでは農作業)・政治・経済・文化の視点からのものであり、複数の登場人物へのインタビューを通して、多面的・多角的な思考の育成が期待できる。**

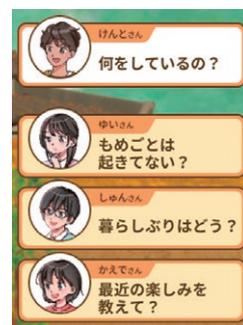


図4 同前 質問項目



図5 同前 手帳機能「推理する」画面

1時間の授業における整理の段階では、「手帳機能『推理する』」(図5)の活用が有効である。体験版では、本時の課題解決へとつながるクイズに、インタビューを通じて得た知識をも

とに三択で答える仕様になっている。クイズはそれぞれ「幕府大名の視点から」、「外国との関わりからの視点から」考える指定があり、クイズに答えることを通して、多面的・多角的に課題について考える機会となる。

以上のように、「タイムトラベル名探偵！」の活用は、1時間の授業を通してだけでも、歴史的な個々の事象の学習に加え、多面的・多角的な思考の育成も期待できると考えられる。

(2) 節(もしくは章)まとめの授業における「展開」の段階での活用例

流れ	生徒の活動
導入	・節(章)の問いを確認する。
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「手帳機能『手帳一覧』」を使用して、節(章)の問いに関わるキーワードを確認する。</li> <li>・「学習ツール(まとめも)」を使用してテンプレート上にキーワードを整理し、得た知識を構造化する。</li> <li>・他者の「まとめも」を参照し合い、協働的な学習を行う。</li> </ul>
整理	・節(章)の問いに対する自分の考えを文章で表現する。

「タイムトラベル名探偵！」の各エリアは、1時間の授業(体験版で降り立つことができる農村エリアは教科書p.138~139)に対応したものはあるが、そこで得られる知識はこの1見開きを超えて、節や章の範囲まで広がっている。そのため、節や章のまとめを行う際にも手助けになると考える。



図6 同前「手帳機能『手帳一覧』」政治・社会キーワード

例えば、「手帳機能『手帳一覧』」で政治・経済・文化の3つの面に分類されたキーワード(図6)を、デジタル教科書に搭載の学習ツール「ま

めも~社会科思考ツール~」上でカード化し、テンプレート(思考ツール)上で思考を構造化する(図7)。テンプレートは年表やYチャート、その他(白紙もある)いくつかのものから、生徒自身が自分に、そして課題に合ったものを選択できる形式になっている。まとめの時間に他者の「まとめも」を参照し合う中で協働的で、対話的な学びに近づくことができると考えられる。

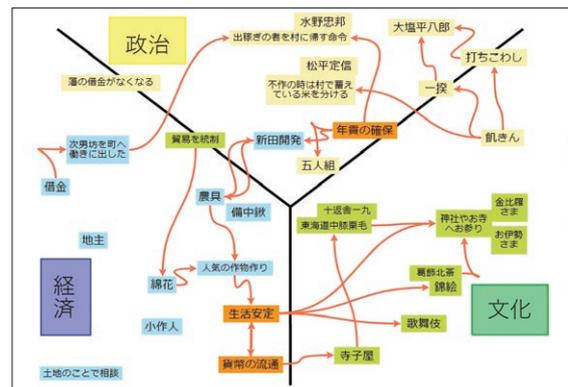


図7 学習ツール「まとめも」のテンプレート(Yチャート)で思考を構造化する例

以上のように、「タイムトラベル名探偵！」は工夫次第でさまざまな場面で使用することができる点で、帝国書院の教科書の強みである「タイムトラベル」をさらにアップデートしたコンテンツだといえる。

4 おわりに

私は初任者のころ、「授業の7割は教材研究で決まる」という話を聞いた。現在の教育観からすると、生徒が主語となり、生徒の学びに教員がその都度寄り添っていくことが重要である。しかし、教材研究の重要さは依然変わらない(むしろより重要さを増している)。時間をかけて準備した教材を提示したときの、生徒の興味にあふれた明るい表情は、教員としてやりがいを感じる瞬間である。これからも生徒のさまざまな学びを喚起する教材を模索していきたい。

「タイムトラベル名探偵！」体験版は、指導者用学習者用 デジタル教科書・教材体験版の注目コンテンツよりご覧いただけます。右のQRコードからアクセスできます。

